

音楽の学習を進めるにあたって

1 音楽科では、どんな学習をするの？

中学校で学習する音楽は、音楽（表現・鑑賞）の教科書と器楽の教科書の2種類を使います。音楽の教科書にはたくさんの季節の歌や成長過程にあった音域の歌が載っています。それらを使って合唱したり、音楽鑑賞を行います。また、器楽の教科書では、リコーダーやギターや日本の楽器（和太鼓・箏・三味線・篠笛・尺八）などを学習し、簡単な曲・小品が載っています。



2 音楽の授業のめざすものは？

中学校の音楽の授業では、卒業してからもずっと音楽が好きで歌ったり、演奏したり、聴いたりするような人になるように、いろいろな活動を通して、楽しさや美しさを感じ取り、自分たちで作り上げる喜びとそれらすべてに感動できる心を育てることをめざしています。授業の内容は、おもに表現と鑑賞の活動に分けられ、前・後期とも両方の内容を扱うようにしています。どんな活動でも自分の持っているだけの力を出し、前向きに取り組むことが大切です。



— 表現の活動 —

歌うこと……歌うことの基本である発声法をマスターし、よく響く声で無理なく歌いましょう。みんなで旋律を歌ったり、男声・女声に分かれてハーモニーを作る二部・三部合唱や3年生では四部合唱なども行います。

演奏すること… AR（アルトリコーダー）でソラシドレミファソラシドの運指を覚えます。また、簡単なアンサンブルを行います。話題になった曲『ハウルの動く城』より（世界の約束）なども取り上げます。

創作すること… 3拍子や4拍子の簡単なリズムを即興で創ったり、様々な音素材を用いて自由にリズム伴奏を創ったりします。

— 鑑賞の活動 —

聴くこと……静かに耳と心を使って“きく”ことに集中しましょう。そして音楽のよさや美しさを感じ取り、自分のことばで感想が書けるようにします。作曲家が作った楽曲を鑑賞する活動と自分達の演奏を聴いて高めていくような活動も行います。“きく”ことは、表現の活動にも深く関係があります。そういう意味で耳を鍛えることはとても重要なことです。



また、本校ではプロジェクターを使って大画面での鑑賞が可能です。楽しみに！

3 小学校とどこが違うの？

小学校でも大切にしてきたことだを思いますが、授業を受けるにあたっての“約束”があります。約束とは、これから先、3年間の音楽の授業の基本となることととても大切なことです。楽器を大切にするとか、忘れ物をしないと、私語をしないと、時間を守るなんていうのは当たり前のことです。

中学校の音楽の授業では、自分たちでどんどん音取りをしたりして、練習を進めていってもらいます。「音楽なんてつまらない」なんて文句言っているそのキミ！おもしろく自分で工夫してみようよ。パートリーダーを中心に練習を進めていけるように、1年生ではパート練習の仕方を身につけてもらいます。後期には、クラス対抗の合唱祭があります。

合唱祭実行委員やパートリーダーを中心に曲を作り上げていく行事です。お互い協力し合ってすばらしい合唱が本番で発表できるようにがんばりましょう。この練習の過程がとても重要です。指揮者や伴奏者も自分達の中から選び、活躍してもらいます。みんなをまとめることが好きだと、ピアノが得意な人はぜひ立候補してください。



4 音楽の成績は、どうやってつけるの？ 音楽の評価は4つの観点の総合としてつけられます。

- 観点** 音楽に親しみ、音楽を進んで表現し、鑑賞しようとする。
 学習態度・発言・表現意欲 (50~70%)
 提出物・授業規律 (10~20%)
 知識テスト (20~30%)
- 観点** 音楽の美しさを感じ取り、それらを生かした表現の工夫をしている。
 指示・指導を生かして表現を工夫し、活動しているか。
 行動観察 (30%)
 技能テスト【歌唱・AR】(70%)
- 観点** 音楽を表現するための基礎的な技能を身につけている。
 音程が正確で、美しい響きの発声で歌っているか。
 リズムが正確で、美しい音色を意識して奏でているか。
 行動観察 (20%)
 技能テスト【歌唱・AR】(80%)
- 観点** 音楽を楽しく聴取・鑑賞し、そのよさや美しさを味わうことができる。
 鑑賞教材・感想 (60~70%)
 鑑賞態度 (10~20%)
 定期テスト (20%)

観点が A A A A	5
A が 2 ~ 3 個	4
B が 3 個以上	3
C が 3 個以上	2 または 1

5 達成目標

1 年生で身につけたい力

表現
 良い姿勢で深く呼吸をして歌えるように
 しましょう
 アルトリコーダーでソラシドレミファソ
 ラシドの運指ができるようにしましょう
 八長調の階名が読めるようになりましょ
 う

鑑賞
 楽器の音色と名前がわかるようになりま
 しょう

2、3 年生で身につけたい力

表現
 深い呼吸と声をおでこにあて、笑顔で
 歌えるようにしましょう
 アルトリコーダーを二人で合わせて演
 奏できるようにしましょう
 発想記号や強弱を理解し表現できるよ
 うにしましょう

鑑賞
 いろいろな演奏の形態を聴きわかる耳
 を養いましょう
 音楽の歴史的背景を感じ取れるように
 しましょう